

幼児の能力の伸ばし方

幼児は、何事につけても好奇心を有ち「これは何?」「どうして?」と疑問を連発します。そんな時、「お母さんは今忙しいの。あとでね」とか、「そんな事は学校で教へてくれるから、今知らなくてもいいの」とかと言って、その疑問をはぐらかしてしまひますと、折角の好奇心が萎んでしまひます。

湯川秀樹博士が幼児時代の想ひ出を書いてあらっしやいますが、それに依りますと、よくお母さんに質問したさうです。すると、お母さんはどんなに忙しい仕事をしてゐる時でも、その手を休めてその目を見詰めながら答へてくれた、といふ事です。このやうなお母さんに育てられた事が、湯川博士を偉大にしたのだと思ひます。

どうぞ子供の質問には、どんなに忙しくても、真剣に答へてやってほしいと思ひます。それも、「ああ、それはとても好い質問よ」と讚めてやりますと、一層効めがあります。子供は質問することは好い事だといふことが解りますから、一層質問するやうになるでせう。

凡そ、能力といふものは、その能力を使ふことによって向上するものですから、子供のやりたいと思ふ事を、どんどんやらせるやうに傍らから励ましてやる事が大切だと思ひます。やってそれが出来ると、子供

は成功感を味ふことが出来ます。これが、やる気を更に起させ、かつ強めるのです。

子供は一つの事に興味を有ちますと、それを繰返し繰返しやって、飽きるといふ事を知らないものです。これが、お母さんにとって不満のやうですが、これこそ能力向上には最も有効な行為なのです。

学習の“習”といふ字は、「同じ行為を百回繰返す」ことを表した字なのです。同じ行為を百回も繰返さないと、折角習っても習った事が身に着かないのです。つまり、元の木阿弥になってしまつて、少しも習はなかつたのと同じ結果になってしまふのです。

昔から「読書百遍、意自ら通ず」と言はれてゐますが、「意味が解る」といふ事もさる事ながら、「同じ書物を百回も繰返して読む」といふ事が価値のあることなのです。「同じ本を繰返して読んでも進歩は無い」と思はれるお母さんが多いやうですが、それが幼児期には大切なのだといふ事をよく知って頂きたいと思ひます。